

安全なMICEの再開と発展に向けた関係者協議会 第1回総会

議事概要

1. 日程

令和3年12月23日（木）15:30～17:30

2. 場所

国土交通省国際会議室

3. 出席者

別紙出席者名簿のとおり

4. 議題

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 観光庁からの説明

(4) 現状と課題、今後の取組の方向性に関する意見交換

(5) 閉会

5. 議事概要（出席者からの主な意見（議題4. 関係））

観光庁より議題について、資料に沿って説明。出席者からの主な意見は以下のとおり。

なお、今後の取組の方向性についてのとりまとめの公表の時期は、感染症の状況も見ながら検討。

- ✓ 学会など国内MICEの国際化が重要。国際化を通じて国内MICEを振興することで、国内MICEが中心の地方の活性化や関連事業者への支援を検討できないか。
- ✓ 「アカデミアにおけるMICE誘致開催意欲の喚起」についても重要な課題。国際会議の開催が地域のレガシーにつながる可能性もある。研究者の評価につながるような仕掛けができないか。
- ✓ コロナ禍の中、会場のキャンセルは主催者側の大きなコストリスクになっている。このリスクをある程度保証することは、開催意欲や開催誘致に非常に大きな効果があるとも考えられ、国の方でも検討いただけないか。
- ✓ コロナ禍で、もともと海外で実施されていたインセンティブを国内に置き換える案件

が起きており、国内のMICE関連事業者がレベルアップできる機会となり得る。

- ✓ インセンティブ関連のデータははっきり数字が取りにくい。省庁間で連携してもっと数字を取っていくことでインセンティブの数値の見える化を図るべき。入国時の把握が難しい場合は、ホテルから協力を得てデータが取れば、インセンティブが現在の数値より多いことが見える化されるのではないか。
- ✓ 海外への情報発信に課題。例えば、オリパラの頃までうまく感染が抑えられていたことは海外にも伝わっているが、以後の情報が止まっており、日本はワクチン接種率が高いことは知られていない。積極的に発信すべき。
- ✓ MICE再開に向けたロードマップの発信が重要。それにはタイムラインを入れることが必要。状況は変化していくとしても、常に変更していくという前提で発表すれば問題ないのではないか。
- ✓ 海外のトレードショーにはより積極的に参加すべき。アジアが感染源というふうに思われているので、こういうときこそ日本は堂々と出展し、リアルでお客様に会うことで、日本への誘致が更に広がっていくのではないか。帰国時に隔離があったとしても、ビジネスで渡航した人に対しては、多少の特別措置をするなどを考えていただけるとよい。
- ✓ サステナビリティに向けた取り組みは、力を入れていかないといけない分野。他方、ホテルや旅館などでできていない所もあり、地域によっては教育の機会提供が課題。
- ✓ 地域で開かれるMICEは、特に地方においてはその地方に対する貢献度が非常に高いビジネスでもあると自負を持ちながら、MICEに取り組んできている。まずは国内のMICEをどう活性化させていくか。人流を止めたり、動きを止めてばかりだと、地方はますます疲弊していってしまうのではないか。
- ✓ 他方で東京も、地方以上に打撃を受けている。東京へ来られるエビデンスのようなものを色々と発信していただければ、もう少し企業が動きやすくなってくる。
- ✓ いま企業はMICEを開催することに躊躇している状態にあり、これを打開していく施策について協議できると幸い。現在、MICE会場の空調、エビデンスを取るための実証実験を行っており、今後結果を開示・共有すること等を通じてMICE開催の気運を高めていければと考えている。
- ✓ MICEに関する重要性は、関わっている我々には当たり前だが、地域の住民には、まだまだ浸透しておらず、市民的な理解には至っていない。地域住民にMICEの重

要性についての認知度を高める取組が非常に大事。コンベンションビューローや地方自治体の仕事ではあるが、国においても、地域の住民、市民に対して、MICEの重要性をもっと発信していく工夫をしていただきたい。

- ✓ 今のコロナの状況を鑑みると、海外からのお客様を多く受け入れることについて、地域の住民はなかなか積極的な気持ちになれないので、かみ砕いていく説明が肝要。
- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、国際会議のハイブリッド開催が進んだことで、地方にも国際会議の開催チャンスがもたらされている。国際会議のサテライト会場を、オンライン技術やハイブリッド技術を用いて誘致を試みられるとよいのではないか。
- ✓ 感染症のために国際会議の業務プロセスが随分変わってきている。国際会議の業界プロセスや人材育成についても、国際水準をベースに考えることが重要。
- ✓ 研究者による国際学会の誘致について、行政が入り押し進めることは性質上難しい。また、国際学会のポスト獲得については、研究が国際的に評価されるなどして結果的に実現されていくものではないか。学内に所属している研究者の評価についても、まずは大学自身が決めるべきものと考えられる。他方で、実際に国際学会の誘致に意欲的な先生方はたくさんいるが、ノウハウやサポートがないところが課題であると認識。それらに関する支援策の周知を、関係機関と連携して行っていきたい。
- ✓ JNTOの活動はまだよく知られていないと認識。国内向け広報の仕方に課題がある。例えばホームページには国際会議統計やインセンティブ旅行コンテンツ集など有益な情報が多く掲載されている。
- ✓ 国際会議の誘致支援については、外国人が50人以上参加するものが対象となっているが、そのままよいのか悩むところ。
- ✓ アカデミアの取組支援についても、MICEアンバサダーの任命など行っている。アンバサダーの先生方に対しても、大学における評価の問題など知っていただくための取り組みを進めたい。
- ✓ 国内コンベンションビューローには国際化の気運はあるが、何から手を着けていいかわからないというような所も多数ある。まだ国内向けに意識が向いている所が多い。
- ✓ 国際MICEの再開に向けて、まずは国内MICEの再開が重要。国内学会が中心だがハイブリッド形式での件数としてはかなり戻ってきている。ただ、バンケットを伴わない開催形態が多い。MICEの再開に向けては、バンケットをやってもらえるように持っていく施策・支援が結構重要な課題。ネットワーキングの機会として重要で

あり、バンケットをどう復活させるかが一つキーワードとなる。

- ✓ 展示会の主催者に対しては、経産省の補助金でキャンセル料支援を行っていることが、よい制度だと感じる。
- ✓ 本キャンセル料支援は、もともとコロナ禍で中止・延期となった音楽や演劇等の公演・ライブエンタメ事業のイベントが対象であった支援制度において、展示会主催者にもキャンセル料支援が及ぶよう、範囲を拡大したもの。全国の様々な展示会、あるいはイベントを支援することができたと考えている。
- ✓ 日本展示会協会は感染拡大予防ガイドラインの第4回目の改定を実施し、現状は展示会が安全・安心に開催できているが、展示会に「行ってもいいよ」ということは言えるが、積極的に「行くべきだ、行こうよ」というメッセージが国・行政から欲しい。
- ✓ 日本の展示会はほぼ内需向けが中心であるなか、今後は国内展示会の国際化推進も大きな課題。
- ✓ 展示会の地方開催促進も課題。これについては、それぞれの場所にあった都市政策を自治体と一緒に考えながら、都市政策の一角として、継続的なビジネスプラットフォームとして展示会MICEがあるということを位置づける、しっかり考えると解が出てくるものではないかと思料。
- ✓ MICE展示会のキャンセルリスクの分担も課題。主催者は経産省の補助金のおかげで救われたが、出展者も協力会社も困っており、キャンセル保険による対応などもあるとよいと思料。
- ✓ MICEに行こうよ、と国・行政に言ってもらうとともに、主催者側も、SDGs、DX、グリーンなどの新たな課題に対応しながらコンテンツをしっかりと練って、参加者が来たくするような工夫が重要。
- ✓ 展示会についても重要性をしっかりと認識してもらわなければいけない。展示会についてもレガシーとして、研究所ができる、人を養成する、地方にももっと人が集まるとか、そういった意義を伝えてMICEの重要性を説くことも課題。
- ✓ 安心・安全な情報発信については、JNTOだけではなく、MICE関係者皆で一緒に声を上げていければと考える。
- ✓ 今後のMICEの再開に向けたロードマップの策定、そして、水際対策に対する情報発信について、有識者や業界の方々からも強い要望が出ている。
- ✓ コロナ禍においてMICEの開催形態が変化している中、MICEの意義について再

定義が必要であり、特にレガシー効果については、これから大変大事になってくる。

- ✓ コロナ禍においても、観光やMICEについてはシビックプライドの醸成や、住民の参加意識の向上につながる事が重要。
- ✓ インセンティブは、対面が基本であり、実際にこちらに来てもらわないと伝わらない部分があるので、当面、どうやったら来てもらえるかということに注力していくセグメント。そのためには、今後、管理型の旅行の実証実験としてインセンティブ旅行を実施し、安全に実施可能だということを発信していくことが特に重要。
- ✓ 観光庁の他の委員会では、観光振興とは地方再生、傷んでしまった地方を復活させるのだという非常に強いメッセージが出ているが、実際は都市部も傷んでいる。MICEだけが都市部と地方部に両方目配りができるという非常に重要な分野になってきている中で、今回、再開と発展に向けたメッセージを出すことは大きな意義がある。
- ✓ 「国としての姿勢の発信」の点については、ロードマップを示すことが非常に重要。国の発信には非常に信用力がある反面、書けることと書けないことがあることもわかるので、可能な範囲で、また定期的に変えても良いのであるべく明確にさせていただけるとよい。
- ✓ 加えて、国だけではなくて、MICEに携わるビジネスの側からの発信というものも補う形である方が、もっとメッセージ力が出てくる。国が言えないことでも、ビジネスの側からだと、もっと詳細に、柔軟なことも発信していけるのではないかと。国のロードマップと、それから、来てくださいという気持ちを込めた民間ビジネス側が心を合わせて発信をするとよい。
- ✓ 「MICEの意義の再定義と認知度の向上」については、国民、地域から支持されるMICEという面では意図的にやっつけていかなければいけない。やり方についてはこれから開発していかなければいけないが、ただ、経済的な効果とレガシー効果、両方を意識するのが肝要。
- ✓ 「一般観光とMICE誘致の連携」については、一般観光とMICEは違うということとを明確にした上で、どの辺りで連携をしたらよいのかということとを明確に記載してはどうか。
- ✓ SDGsを意識した提案も今後のMICE誘致には不可欠。ベストプラクティスを共有しながら、みんなでレベルを上げていくというところが大事。国の役割として、情報共有、横展開を強力に推進してほしい。

- ✓ 国内MICEの国際化等については、すぐには難しい課題かもしれないが、中期的には重要な課題なのではないか。MICEに限らないが、国際団体等のポストの獲得は重要な課題。
- ✓ MICEの振興は観光の施策対象の振興にもつながることを考えて政策を検討していただきたい。
- ✓ コロナ下での海外のMICE開催の状況や、主催者の日本での開催時のリクエストに対して、日本がどう対応するのが国益になるのかということを含めて発信していきたいし、国の方でもお考えいただきたい。
- ✓ 業界やMICE事業者の方でも、MICE再開に向けた働きかけを進めていきたい。

以 上